

4. 附属センター及び附属校園

4.1. 学部・附属交流会議

本会議は、神戸大学の年次計画の実施について、審議、意見交換を行うことを基本的任務としている。従前はほぼ2ヶ月に一度のペースで行われてきたが、本年度は附属校園の改革が進行していることもあり、2回の実施に留まった。各回とも、学部と附属校園から報告を出し合い、当面する課題について協議を行った。以下はその概要である。

(1) 第1回会議 5月9日(火)

学部長(和田進)から、大要次のような点について報告があった後、構成員から大学院再編、附属校園の改革等について質問があり、若干の質疑を行った。

- ・平成18年度の入学者の状況について
- ・今年度の学部の執行体制について
- ・今年度の学部附属コラボレーション委員について
- ・前期日程入試合格者誤報問題について
- ・平成17年度実績書とりまとめ表について
- ・大学院再編について
- ・科研の採択状況について(学部やや停滞状況、住吉校4件採択、明石校園10件採択)
- ・特別支援教育について(地域のセンター的役割の強調、特別支援学校への名称変更等)

(2) 第2回会議 12月11日(火)

学部長(青木務)から、平成18年度の年次計画に関する本部ヒアリングの結果が報告された。ちなみに、その中の学部から提出した重点事項(5件)は以下のとおり。

- ・住吉小学校の耐震改修の実現について
- ・養護学校の下水道管敷設に伴う配管工事について
- ・県・市郡町教育委員会との人事交流について(明石)
- ・第18回障害児教育研究協議会、公開講座の学部との共催について(養護)
- ・学部・附属コラボレーション委員と連携したプロジェクトの推進について(住吉)

次いで附属校園から、教員の人事交流を円滑に行うために、地方自治体との給与格差を是正することが必要であるとの報告が行われた。

(評議員(学部・附属交流会議担当) 船寄俊雄)

4.2. 附属住吉校

平成17年の研究発表会終了後、教科教育を主体とした研究と国際教育を中心とした研究を一本化し、小中学校9ヵ年の中で実現する小中合同の研究を開始した。研究主題を「小中一貫教育で実現する国際社会に生きる資質・能力の育成」とし、“グローバル化が進む国際社会において求められる資質・能力とは何か?”をテーマとして、多文化社会において自分を発揮し、他者とともに豊かな文化を創りだし主体的に関わっていこうとする児童・生徒の育成を目指した。

1. 教育課程

小中学校は、神戸大学発達科学部の附属学校という特性を生かして、多文化共生教育が推進できるカリキュラムを毎年作成し、各教科の単元における評価基準を示している。また、小学校では、英語学習と総合学習を「国際タイム」と位置付け、国際社会でのコミュニケーションのあり

方や国際社会が抱える諸問題を追究することで、国際社会に生きる資質・能力を育てている。中学校では、本年度より「グローバル総合」の時間をスタートさせ、広い視野からの国際理解教育を目指している。

(1) 英語

国際社会を生きる実践的コミュニケーション能力の育成

英語カリキュラムを開発研究するための小中合同プロジェクトを発足

小学校英語活動の年間指導時数は、小学校 1～2 年 18 時間、小学校 3～6 年 35 時間

ALT による授業の充実と、帰国生徒の英語能力の保持及び増進

(2) 総合学習

1・2 年は国際文化学習を生活科として実践。3 年生～6 年生は、テーマ総合学習、国際文化学習の 2 部門より実践（小学校）

グローバルで学際的（環境・人間・社会からの追究）な学習活動（中学校）

(3) 学校行事

小学校 4 年宿泊活動（淡路島方面 7/5～7）、小学校 5 年宿泊活動（但馬方面 7/12～14）、
小学校 6 年修学旅行（上高地方面 7/18～21）

中学校 1 年宿泊行事（瀬戸内の旅 11/14～16）・史跡巡り（吉野、飛鳥 11/15～17）

中学校 3 年修学旅行（沖縄方面 5/15～18）

不審者侵入時対応訓練・児童引取訓練（6/23）、小中合同火災時避難訓練（9/5）、地震時避難訓練（1/17）（小学校）

小中合同火災時避難訓練（9/5）、地震・火災避難訓練（1/17）（中学校）

(4) 教育実習

小学校事前実習 46 名（5/12,5/16）、小学校教育実習 40 名（9/4～9/29）

中学校 大学全体事前実習 73 名（4/26）

・中学校卒業生と D 実習 事前実習 15 名（5/8～9）、本実習 15 名（5/22～6/16）

・A・B 実習 事前実習 37 名（7/6～7）、A 本実習 28 名（9/11～10/6）

B 本実習 9 名（10/10～11/3）

2. 研究

(1) 学部共同研究

小学校と中学校が共同して研究できるように、新たな研究システムを構築

英語コミュニケーションや日本語カリキュラムなど 12 のプロジェクトを、小中合同の 10 のプロジェクトに再編し、大学との共同研究を推進

社会・技術・道徳によるシティズンシップなど新規プロジェクトを設立

6 月 9 日に「小中一貫教育で実現する国際社会に生きる資質・能力の育成」を主題とした学部附属共同研究「教育研究協議会」を開催

(2) 研究発表会

算数教育を語る会「反復練習だけでいいのか？今、確かな学力を考える」(2/2)

第 22 回国語科総合単元学習授業研究発表会「今、改めて言葉の力を考える」(2/9)

(3) 奨励研究（採択）

Knowledge Forum を活用した意志決定力育成カリキュラムの開発（小学校）

子どもの主体的な観察力を育成するための Web カメラを利用した授業プログラムの開発

(小学校)

帰国児童の日本語力判断基準表に基づく読解力及び作文力を伸ばすカリキュラム開発

(小学校)

法意識の視点と共同に基づいた意志決定学習の歴史授業開発(中学校)

(4) 学会発表・論文

学会等名	発表論文名	掲載誌等
日本理科教育学会 第56回全国大会	生徒の思考を引き出し相互作用を活性化するために・協同学習におけるIT活用・授業を語る場・Part 2・大黒実践	日本理科教育学会全国大会 発表論文集, 第4号, p.112
"	小学校2年生の生活科「町探検」におけるケータイの活用(1):学習活動はどう展開されたか	日本理科教育学会全国大会 発表論文集, 第4号, p.351.
"	小学校2年生の生活科「町探検」におけるケータイの活用(2):地域に対する子どもたちの認識の変容	日本理科教育学会全国大会 発表論文集, 第4号, p.352.
"	小学校2年生の生活科「町探検」におけるケータイの活用(3):学習者の自己評価と学習目標の達成度	日本理科教育学会全国大会 発表論文集, 第4号, p.353.
"	再構成型コンセプトマップ作成ソフトウェア「あんどろ君」を利用した授業デザイン:リフレクションを促進するためのデザイン指針	日本理科教育学会全国大会 発表論文集, 第4号, p.333
"	遺伝子組換え食品問題に対する社会的意思決定をテーマとしたCSCLシステム活用型科学教育カリキュラム:知識構築の観点からみた小学生の社会的意思決定	日本理科教育学会全国大会 発表論文集, 第4号, p.290
日本科学教育学会 第30回年会 (年会発表賞受賞)	協同学習を支援する再構成型コンセプトマップ作成ソフトウェア:生徒からみたソフトウェアの有効性と概念変換に与える効果	日本科学教育学会第30回 年会論文集, pp.247-248.
"	インターネットを用いたテフラに関する国内・海外との協同学習モデルの開発(1) モデル開発の計画と初期の実践事例-	日本科学教育学会第30回 年会論文集, pp.209-210.
"	ケータイを活用した生活科の授業:2年生「季節見つけ」の年間カリキュラムの改善	日本科学教育学会第30回 年会論文集, pp.189-190.
"	ケータイで広がる学習環境:家庭との連携における成果と課題	日本科学教育学会第30回 年会論文集, pp.41-44.
"	ケータイを利用した楽しいフィールドワーク(2)	日本科学教育学会第30回 年会論文集, pp.199-200.
"	PDAとセンシングボードを活用した小学校での環境問題学習	日本科学教育学会第30回 年会論文集, pp.121-122.
"	PDAとセンシングボードシステムを活用した実践のあゆみ	日本科学教育学会第30回 年会論文集, pp.123-126.
"	PDAとセンシングボードを活用した理科授業のデザイン	日本科学教育学会第30回 年会論文集, pp.127-128.

"	PDAとセンシングボードを活用した学習の評価	日本科学教育学会第30回 年会論文集, pp.129-132.
"	画像並置機能を実装したビデオクリップ自動作成システムにおける授業実践:小学校6年生「結晶づくりにチャレンジしよう」における利用事例と評価	日本科学教育学会第30回 年会論文集, pp.413-414.
日本科学教育学会 研究会(研究報告)	協同学習の理論と方法を習得するための教師教育プログラムの開発	日本科学教育学会研究会 研究報告第21巻pp.67-72
"	科学者と学ぶ生活科の授業:対話型バーチャル植物園を利用した「野の草花しらべ」	日本科学教育学会研究会 報告 第21巻第1号pp.29-32
日本科学教育学会 平成18年度 第1回研究会	協同学習の理論と方法を習得するための教師教育プログラムの開発	日本科学教育学会研究会 研究報告第21巻pp.67-72
"	遺伝子組換え食品問題に対する社会的意思決定をテーマとしたCSCLシステム活用型科学教育カリキュラム:デザインの変更が個人的意見に与えた影響	日本科学教育学会研究会 報告, 第21巻, 第1号, pp83-88.
"	再構成型コンセプトマップ作成ソフトウェアを利用した理科授業のデザイン実験:「物質の三態変化」における概念理解に着目して	日本科学教育学会研究会報告, 第21巻, 第1号, pp103-108.
日本科学教育学会 第2回研究会(科学教育ICT研究部会)	ブログを活用したテフラの協同観察学習プロジェクト:神戸大学発達科学部附属住吉中学校における実践	日本科学教育学会研究会研究報告第21巻, No.2, pp.1-4.
"	インターネットを用いた中学生のテフラに関する協同学習・研究者のアウトリーチ活動の概要と生徒の評価・	日本科学教育学会研究会 研究報告, Vol.21, No.2, 日本科学教育学会, pp.9-12
日本教育工学会 第22回全国大会	協同学習の理論と方法を習得するための教師教育プログラム:ワークシートによる効果的な研修の提案	日本教育工学会第22回全国 大会講演論文集pp.569-570
"	画像並置機能を実装したビデオクリップ自動作成システムによる授業実践-小学校3年生「かげと太陽の学習」における利用事例と評価-	日本教育工学会第22回全国 大会講演論文集pp.275-276
"	生活科におけるケータイの活用-2年生「町探検」の実践的評価-	日本教育工学会第22回全国 大会講演論文集pp.903-904
教育システム情報学会 第31回全国大会 (大阪経済大学 2006.8.23~25)	ケータイを利用した参加体験型ゲームシステムの開発:パイロットスタディを通じた教育利用への可能性	第31回全国大会講演論文集, pp.495-496.

The 4 th International Workshop on Wireless, Mobile and Ubiquitous Technologies in Education (Athens, Greece, 2006.11.16 ~ 17)	Development and Pilot Study of a Mobile Phone-aided Mutual Monitoring Support System	Proceedings of Forth IEEE International Workshop on Wireless, Mobile and Ubiquitous Technology in Education. pp.39-46
World Conference on Educational Multimedia, Hypermedia & Telecommunications 2006 (Orlando, Florida, USA, 2006.6.26 ~ 7.1)	Fieldwork Support System Using Mobile Phones: Evaluations of Information Sharing in the Second Grade's Life Environment Study.	Proceedings of World Conference on Educational Multimedia, Hypermedia & Telecommunications 2006, pp.1325-1331.
The 9 th International Conference on Public Communication of Science and Technology (COEX, Seoul, Korea, 2006.5.17 ~ 19)	Development of Learners Participatory Interactive Virtual Botanical Garden	Supporting Collaboration between Scientists and Learners with Mobile Phones, Proceedings of the 9th International Conference on Public Communication of Science and Technology (PCST-9) , pp.514-519.
E-Learn2006 World Conference on E-Learning in Corporate, Government, Healthcare, & Higher Education (Honolulu, Hawaii, USA 2006.10.13-17)	Expansion of Learning Community Using Mobile Phones	Proceedings of World Conference on E-Learning in Corporate, Government, Healthcare, & Higher Education, pp.943-948 .
近畿数学教育学会	「確かな学力」を育む「単元」の開発 - 「角の大きさの測定」 -	近畿数学教育学会会誌 第20号, 2007, pp.1-10.
日本数学教育学会	「学ぶ楽しさ」を実感できる数学授業	第88回全国算数・数学教育研究大会総会特集, 2007, p291.
日本学校教育相談学会 近畿ブロック研究大会	教師とメンタルフレンドが連携したサポート体制を目指して	
全国社会科教育学会	法意識を視点にした意思決定学習の授業開発 - 歴史法廷「大津事件を裁く！」 -	第55回全国研究大会自由研究発表

(5) 近畿地区国立大学附属学校連盟

近附連 幼小部会 図画工作・美術分科会：公開授業・研究討議（11/22）

近附連 特別部会 給食（健康教育）分科会：公開授業・研究討議（11/29）

近附連 中高部会 美術分科会：公開授業・研究討議（11/22）

近附連 特別部会 教育実習部会：研究討議（12/12）

3. 国際教育センター

(1) 帰国児童生徒教育学級

海外から帰国した4年生以上の学齢児童及び生徒の実態や特質に応じて、初等教育を行う。

一般学級との相互交流の中で、国際教育の充実及び相互啓発を図る。

現在、香港・シンガポール・マレーシア・カナダ・アメリカ・ケニア・スペイン・イギリス・フランス・ベルギー・オーストラリアなどからの帰国児童生徒によって構成される。

(2) 国際教育推進プログラム

小中学校9年間の一貫教育を通じて、これからの国際社会を生きる子どもたちに求められる資質・能力を育成する。

教科などをベースにした10の研究プロジェクトを小中学校教員と学部教員で立ち上げ具現化を進める。

英語、生活科、総合学習などから国際社会が意識できる学習を組み込む。

4. 学校評議員会

第1回学校評議員会（1/19）

- ・平成21年度の最終評価までに達成すべき中期目標・中期計画を説明する。
- ・中期目標・中期計画に沿った学校評価の項目を検討する。
- ・学校評価項目をどのように具現化し推進しているのかを説明する。

第2回学校評議員会（2/19）

- ・第1回学校評議員会の説明内容から学校評議員の意見を集約する。
- ・評価結果を元によりよい学校の在り方を協議する。
- ・学校評議員による学校外部評価をまとめる。

5. 入学選考，進路指導

(1) 小学校

受験：男250名，女240名，計490名

合格：男60名，女60名，計120名

- ・募集要項配布（10/2～11/20），募集説明会（11/21，11/22），願書受付（11/23，11/24）
- ・入学選考日程 検査（12/19），検査（12/21），合格発表（12/23）

(2) 中学校

受験：連絡進学 男38名，女47名，計85名

外部進学 男40名，女81名，計121名

合格 連絡進学 男38名，女47名，計85名

外部進学 男7名，女28名，計35名

- ・募集要項・願書配布（10/2～1/19），入試説明会（11/11・12/8・12/9）
- ・入学選考 A日程：作文，面接，調査書（1/20）

B日程・連絡進学：算数，理科，国語，社会試験及び面接（1/26）

・検査合格発表：A日程（1/22）、B日程及び連絡進学（1/29）

6. 地域連携，PTA 活動

児童の安全確保を目的とした全校保護者による登校指導（小学校）

神戸大学アメリカンフットボール部の指導を受けるジュニアレイバンズが，第5回王子キッズフラッグゲームスで優勝（小学校）（7/8）

クリーンアップ作戦：PTA 地域部と父親の会が中心となり多くの保護者が参加して通学路を清掃（小学校）（12/2）

6年奉仕活動：教室及び周辺を含め6年児童及び保護者による清掃（小学校）（3/10）

東灘区一斉清掃への参加。生徒，保護者が多数参加して，学校近辺の道路と周辺を清掃（中学校）（5/28）

7. 学校保健委員会

子育てに関するさまざまな疑問や悩みを取り上げ，臨床心理士であり公立中学校のスクールカウンセラーでもある発達科学部吉田圭吾氏が講演（小学校）（2/9）

『目の健康とコンタクトレンズの正しい使い方』講師：眼科校医（甲南病院副院長）井上正則氏。正しいレンズの使い方やケアについて学ぶとともに，目の健康に関する知識について知る。（中学校）（12/8）

（附属住吉小学校長，中学校長 市橋秀樹）

4.3. 附属明石校園

1. 明石校園の教育と研究

(1) 幼稚園の園児 168 名，小学校の児童 476 名，中学校の生徒 358 名に対して，「社会を創造する知性・人間性を身に付けた子ども」の育成を目指し，健全で心豊かでたくましく生きる子どもに成長することを願い，これまでの教育研究の成果を踏まえ，継続した実践を行っている。

平成 18 年度末には，幼稚園では 68 名の修了園児，小学校では 78 名の卒業生，中学校では 119 名の卒業生を送り出した。その間，小・中学校には，若干の不登校児童生徒や保健室登校生がいるが，スクールカウンセラーが配置されることにより，多面的な対応ができ，それぞれに次の進路を見い出している。全体として，本校園のねらいは，概ね達成されていると言える。

(2) 平成 18 年 10 月 20 日に，中学校で教育研究協議会を，平成 19 年 1 月 25 日，26 日には，小学校で教育研究発表会を，それぞれ全国から多数の参加者を招いて開催し，大きな成果を得た。

(3) 幼稚園では 13 名，小学校では 22 名，中学校では 30 名の学生の教育実習を行った。

2. 教育目標・計画について

(1) 平成 12 年度に文部科学省の研究開発指定を受け，子どもの学びから創造する 12 カ年のカリキュラムを構築し，それを「学びの一覧表」として結実させた。その後これを基に，生涯学習のための基礎・基本を養い，一人ひとりの個性を最大限に伸ばし，心豊かでたくましく生きていくことを目指した幼・小・中 12 カ年の一貫教育を実践して今日に至っている。

さらに，平成 17 年度からは，幼・小・中それぞれの発達段階における独自の課題を視野に入れ，足元を確認しながら，3 校園の連携を土台としたそれぞれのカリキュラム研究の深化と追求を目指しているところである。

(2) 5 歳（幼稚園年長組）と 6 歳（小学校 1 年）が，年に三つの単元学習及び日常の交流活動を通して一緒に活動したり交流したりする。その中で，幼稚園と小学校の教員が一体となり，単

元学習や日常の交流活動を構想・実践・評価を行い、子ども一人ひとりの学びに即したカリキュラムの修正・充実に取り組んでいる。

3. 研究目標・計画について

本校園には「カリキュラム開発研究センター」を設置している。この事業は、学部と本校園との緊密な連携を図り、学部の理論研究と附属校園の実践研究との相互交流を図るためのものである。具体的には、次のような事業を行っている。

(1) 発達支援カリキュラム開発と公開

このことについては、前項2「教育目標・計画について」を参照していただきたい。

(2) 地域の学校におけるカリキュラム開発の支援

幼稚園

ア 県内外の公私立幼稚園教諭・公私立保育所等保育士を対象に、本年度も「幼児教育を考える研究会」を年間4回（6月・8月・12月・2月）開催した。参加者総数は253名であった。今年度は、過去5年間の成果を踏まえて、研究会名を改め、対象を広げるとともに、実施日を休業日に設定し、さらに内容を充実して開催した。

イ 地域の公私立幼稚園の教員の資質向上を目的とした日常的な参観者に保育を見学させるとともに、幼稚園教育のあり方や特色あるカリキュラムづくりのための講話等を行った。年間で、3回の幼稚園訪問があり、参観者は70名であった。また、他の幼稚園や研修会への講師派遣は5回であった。

小学校

ア 1月25日、26日の研究発表会の参加人数は約300名であった。

イ 兵庫県教育委員会、明石市教育委員会と連携して、6月13日に実践交流会を行った。市内の教師40名余りが参加して、学習リフレクションを基にした校内研修のあり方を深めた。

ウ 夏季休業中にも事業を展開し、地域の学校現場の教員と単元開発の仕方、学習指導のあり方などについて研修を行った。明石市教育委員会、明石市教育研究所、明石市生涯教育センターの協力、共催で多くの参加者を得て活動を展開した。

- ・ 夏季集中講座（80名）
- ・ 夏季教員研修講座（51名）
- ・ 出前講座（14名）

エ 年間で、2回の学校訪問（参加者10名）があり、他校への講師派遣者は延べ16名であった。

中学校

ア 10月20日に研究協議会を開催し、約150名の全国からの参加者を得た。

イ 研究視察・学校訪問は、年間7回、参観者は9名あった。また、他校への講師・指導者派遣の実績は、延べ18名であった。

(3) カリキュラム開発研究資料の収集と閲覧

及川平治主事の文献収集や情報収集を継続して行っている。特に、平成16年度に幼稚園・小学校の創立百周年記念事業の一つとして、及川平治記念文庫部が設置され、本年度は文献・情報収集が充実し、その整理も進めることができた。研究協力者2名を委嘱し、定例的に部会を開催し、事業の進捗を図っている。

カリキュラムの開発研究資料の閲覧者は、及川平治主事研究だけでなく、戦後のコア・カリキュラムの研究にもわたった。コア・カリキュラムの内容においては、溝邊和成氏（広島大学大学院教育学研究科）や金馬国晴氏（横浜国立大学教育人間科学部学校教育課程）両氏の研究に資するところも大きかった。

(4) 乳幼児発達支援教室の充実

地域の乳児・幼児の子育てに関わる諸問題の相談と親子の関係づくりに貢献するため、学部教員及び育友会と連携して、テーマ「幼稚園における子育て支援プログラムの実践と評価」を設定し、プログラム「安全で健康によいもの、親子で作れるもの」を実施した。

4. 学部との共同研究の目標・計画

(1) 平成 15 年度に立ち上げた学部と附属校園との研究をより深めるための研究コラボレーション委員との関わりを、今年度も深めてきた。また、平成 18 年度科学研究費補助金(奨励研究)については、幼稚園 2 件、小学校 6 件、中学校 7 件が採択された。

(2) 文部科学省の研究開発の成果である「学びの一覧表」と、その基礎になる約 4,000 余りの子どもの「学び」の内容を表示し、学部の教員に配布、発達や能力開発の面からの検討・指導を依頼し、データの共有化を行った。

(3) キャリア発達支援について（中学校）

ア 平成 17 年度より「自他の価値を感じて生きる～キャリア発達支援カリキュラムの開発」という研究主題を設定し実践研究を行ってきた。具体的には、本校園が目指す「社会を創造する知性・人間性を身に付けた子ども」の育成に向け、カリキュラム構造を「教科学習」と「キャリア総合学習」という大きな 2 つに分けたカリキュラムの構築と展開を行った。

イ 本校のいう「キャリア」とは、文部科学省のいう「勤労観、職業観」を含みつつ、「社会との関わりの中での生き方につながる経歴」そのものを意味し、全人的な教育を目指すものである。

ウ 本研究は、キャリア教育の第一人者である筑波大学特任教授渡辺三枝子先生にご指導を仰ぎつつ進めるとともに、城校園長が研究代表者となっている萌芽研究「幼・小・中 12 か年にわたる一貫したキャリア発達支援教育カリキュラムの開発研究」とも連携している。

エ 本研究に関する研究協議会を平成 18 年 10 月 20 日（金）に開催し、全国から約 150 名の参加者を得た。

オ これまでの本校の研究成果とその実践がもとになり、11 月 25 日には、文部科学省より「キャリア教育優良校」として文部科学大臣表彰を受けた。

5. 地域・社会貢献の目標・計画

これについては、前項 3 の(2)「地域の学校におけるカリキュラム開発の支援」の報告を参照していただきたい。その他として、以下のようなことを行った。

(1) 校園全体

県・市郡町教育委員会に出向き、制度化された初任者研修及び 10 年次研修のために附属・カリキュラム開発研究センターが協力できることや、そのあり方等に関して協議した。

(2) 幼稚園

兵庫県幼稚園教育研究会東播磨支部、研究調査会に研究員等として参加し、よりよい幼児教育を目指して、また、教員の資質の向上を目指してともに研究を進めている。本年度は 5 年間の研究をまとめ、東播磨支部総会にて発表を予定している。

(3) 小学校

小学校では、明石市教育研究所の自主研修会として、授業公開並びに研修を行ったり、自主研修に参加したりしている。

附小バザール&ステージ(フェスティバル)や育友会主催のバザーなどにも、地域住民の積極的な参加を得て、好評であった。

(4) 中学校

研究協議会及び研究視察・学校訪問の要望への対応、他校への講師・指導者派遣等により、県や地域における中学校教育の充実発展に直接的に寄与したり、選択総合学習発表会には、地域の住民にも呼びかけ多数の参加を得た。

6. 施設設備の目標・計画

(1) 幼稚園ではよりよい実践を行うため、また、安全確保のために、遊具等の安全点検、園庭の安全整備を行う。

(2) 小学校では当初平成16年度に校舎全面改修が予定されていたので、その後継続して校舎の図面などを作成し、細部まで検討を行っている。また、そのために全面改修が終わった他の附属校の情報や校舎建築の資料収集を行っている。

(3) 中学校では、平成19年度に校舎及び体育館の耐震工事を予定している。

7. 管理・運営の目標・計画

(1) 学校評議員会

本年度も幼稚園5名、小学校5名、中学校6名に学校評議員を委嘱した。

第1回目は、6月15日(木)に幼・小・中合同で開催し、小・中の授業を参観した後、本年度の各校園における教育研究の方向性について説明し、協議していただいた。

第2回目は、11月9日(木)に再度幼・小・中合同で開催した。半年間の各校園の状況説明の後、新聞報道で広く知れわたっている「神戸大学の附属校園再編計画」について、校園長が説明し、意見を求めた。

第3回目は、2月22日(木)に各校園ごとに時間設定して、並行開催した。幼・小は授業参観を組み入れ、中学校はビデオで生徒の活動を紹介し、年度のまとめを述べ、中期目標・中期計画に沿って本年度を振り返り協議していただいた。

(2) 校園の防犯防災・安全について

校園全体

ア 明石市の教育委員会並びに明石警察署との連携を保ち、県警の情報をメールシステムにより活用して情報の入手や連絡などスムーズに行えた。

イ 各校園ごとに、これまでに設置した設備や「さすまた」「防犯スプレー」等について、その使用法の講習会を行っている。

幼稚園

ア マニュアルを確認し、不審者対応並びに防災の訓練をそれぞれ6月、10月に実施した。

イ 本年度も年1回遊具等について専門家による点検を行い、学期に1回各担任による点検、毎日の当番による点検を行う。

ウ 明石市教育委員会や明石警察署による不審者情報は速やかに保護者に連絡し、安全面での徹底を図る。

小学校

ア 明石市教育委員会や県警からの不審者情報が入るたびに、情報を検討し、さらに新しい情報を得ながら児童に対しては、各担任による指導、保護者に対しては、メーリングリストを活用した連絡（NTT 西日本中国「メルポコ」）により安全の徹底を呼びかけている。

イ 安全管理については、防災・震災訓練を年2回行った。阪神淡路大震災と同じ日の1月17日に、安全集会を行い、神戸大学大学院医学系研究科災害・救急医学分野石井昇教授を招へいし、当時の様子や安全対策についてお話をいただいた。

中学校

ア 明石市教育委員会や県警からの不審者情報のメールによる地域情報を検討し、必要な情報については、パソコンや携帯電話を使ったメール（NTT 西日本中国「メルポコ」）を配信し、保護者に注意喚起を速報している。また、生徒に対しては、生徒指導・安全指導主任の指導や各担任による指導を行い、安全の徹底を行った。

イ 年間計画に位置付けていた「地震発生に伴う火災」を想定した「避難訓練」を実施した。これらの取組みは、単なる法令上の避難訓練に止まらず、災害の仕組みや阪神淡路大震災から学ぶべきこと、ボランティアについて、安全確保の方法、応急処置法等、さまざまな学習と連携して行うようにしている。

8. その他 ~スクールカウンセラーの配置と校園内の適応支援体制の確立~

- (1) スクールカウンセラーが配置され、友達関係のトラブル、いじめ、恋愛相談、親との関係、不登校等、児童生徒に起こるさまざまな人間関係上の問題について、幅広くカウンセリングを行うことができた。
- (2) 保護者からの相談も受け、保護者へのコンサルテーションを行っている。子育ては、保護者にとって自分自身の生き立ちや生き方とも深くつながるため、ある保護者が相談の途中から、自分自身の生き方を振り返るようになるなど、さまざまな展開が見られた。
- (3) 教師にとっても、子どもの指導・援助方法について相談ができ、成果を得ることができた。
- (4) 相談内容の多様化と、相談件数の増加、さらに個に応じて学習するスペースを確保する必要性から、小学校においてはカウンセリングルームの設置を検討し、要望している。場所としては、現家庭科室東隣の準備室スペースを充当する計画である。
- (5) 小・中それぞれに「適応支援委員会」を組織し、担任教師をバックアップする体制を作ってきた。校園全体としても「校園適応支援委員会」を組織して、幼稚園から中学校に至るまでの一貫した取組みの重要性を再確認し、子どもの心身の健康について校園全体で取り組むことを目指し、連携を強め、実践に生かしている。

（附属明石小学校長，中学校長，幼稚園長 城 仁士）

4.4. 附属養護学校

1. 障害児教育の創造的実践と研究に関すること

- (1) 授業計画と教育実践カルテ（個別の指導実態と課題）を作成し、学期ごとの授業実践記録を作成した。
- (2) 指導要録と学期ごとの個別評価（「あゆみ」）を作成した。
- (3) 学校行事（入学式，修学旅行，運動会，成人祝賀会，学習発表会，卒業式など）や学部行事（校外学習，校内合宿など）を実施した。
- (4) 兵庫県知的障害養護学校小学部会を発達科学部の協力を得て11月22日に開催した。

(5) 「障害児の性教育」に関する公開研究会を近隣の養護学校等からの参加を得て12月9日に実施した。

(6) 研究集録NO.32を発行した。

2. 大学との連携に関すること

(1) 「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律、平成9年法律第90号」による介護等体験実習を年間、66日、213名の学生(発達科学部、他5学部、2研究科)に対して実施した。1人2日間の実習である。

(2) 障害児教育学コース学生9名の障害児臨床実習を次のような日程で実施した。7月5日実習前ガイダンス、9月11日～15日事前実習、10月16日～26日日本実習、10月27日事後実習

3. 地域との交流・連携に関すること

(1) 進路指導の一環として、次のような現場実習を実施した。

高等部2年生(8名) 10月に授産更生施設と作業所で4日間実施

高等部3年生(8名) 6月に更生施設と作業所で4～5日間実習

10～11月に更生施設、授産施設、作業所、などで実習

(2) 障害幼児親子教室として、地域の就学前障害児の療育と教育相談を以下のように実施した。

年間実施日数 10日(月1回土曜日実施)

参加登録幼児 26名

参加延べ人数 親子98組(平成17年度128組)

(3) 地域障害者福祉ネットワークである「明石障がい者地域生活ケアネット」に参画して教育福祉懇談会(7月29日)などを実施した。

(4) 地域に貢献する教育実習として、以下のとおり実施した。

仏教大学など他大学学生の教育実習(13名) 5月29日～6月9日、10月16日～26日

(5) 明石附属小学校(2月19日)、三木養護学校(6月21日)との交流学习を行った。

(6) 居住地校との交流(年2回)を行い、明石市内小中障害児学級担任者会や合同行事へ参加した。木の根学園職員との懇談会(8月10日)を実施した。

4. 学校運営に関すること

(1) がっこう新聞、学部だより、学級通信を定期的に発行した。

(2) ホームページの更新を継続的に行った。

(3) 学校評議員会を次のとおり開催した

1月14日(日) 9:30～14:00

成人祝賀会見学、学校の現状報告、学校評価についての意見聴取

(4) 安全管理・確保に関して、毎月の安全点検と併せて、不審者対応の防災訓練を明石警察署の協力を得て実施した。(11月28日)

(5) 学校評価に関わる「保護者アンケート」を実施し集約した。

5. 施設設備の改善に関すること

(1) スクールバスが新たに購入され新学期がスタートした。

(2) 特別教室(陶工室、木工室、農業室)に空調設備が設置され、全教室に空調機能が備わったため、冬季のボイラー運転を停止した。転倒防止金具の取り付け、校舎南側斜面の雑草雑木整備を行った。

(3) PCを補充し、全教員に一台ずつ配備することができた。

6. 入学・教育相談，入学選考に関すること

(1) 学校見学会と入学説明会を以下のように行った。

第1回学校見学会 6月12日

授業参観，施設見学，懇談会（参加者66名）

入学相談(教育相談) 9月4日～11月10日

相談件数 小学部16件，中学部15件，高等部8件

入学説明会 10月3日

2007年度児童生徒募集要項発表

兵庫県，神戸，明石，加古川，高砂教育委員会指導主事が参加

第2回学校見学会 10月12日

授業参観，施設見学，懇談会（参加者72名）

(2) 入学選考は12月7日に実施した。結果は以下のとおりであった。

入学志願者数 小学部11名(うち編入5名)，中学部10名，高等部6名

合格者数 小学部5名(うち編入2名)，中学部2名，高等部2名

(附属養護学校長 廣木克行)

5. 発達支援インスティテュート

5.1. 心理教育相談室

心理教育相談室は，自分自身のことや子どものこと或いは家族のことなどで心理的な援助を求めている人に対して，臨床心理学の立場から専門的援助を提供する地域に開かれた有料の相談室である。心理療法（カウンセリングやプレイ・セラピーなど）或いは必要に応じて心理テストを実施するなどの活動を行っている。相談スタッフは，臨床心理士資格を持つ博士前期課程臨床心理学コース（臨床心理士養成コース）担当の教員及び同コースの大学院生である。

相談は予約制で，相談活動の主な流れは以下のとおりである。

初めての相談申込みは電話での受付のみとし，申し込まれた相談ケースは週1回のスタッフ・カンファレンスで受理面接（インテーク）担当と陪席者を決める。インテーク担当は，必ず教員スタッフが当たり（陪席者は院生スタッフ），相談内容や相談者の状態，来談意志等について確認する。その後のスタッフ・カンファレンスにおいて，心理アセスメントなど継続ケースとして受理することが適切かどうかを検討し，受理された継続ケースは，教員スタッフのスーパーバイズの下で原則として陪席した院生スタッフが担当する。また，インテークの段階やその後のスタッフ・カンファレンスで他機関（病院など）への紹介が適切と思われる場合には，そのことをガイダンスする。継続ケースは，週1回（50分）の心理療法を原則とするが，来室頻度については相談者の事情などにより適宜話し合っている。なお，新規電話受付は，月・火・木・金（祝祭日を除く）の午後1時から午後6時に行っているが，お盆前後の2週間と年末及び年度末の1週間は休みとしている。

本年度（3月9日現在）の相談活動実績は，新規電話受付件数31件，インテーク回数21件である。また，年度開始と過年度からの引継ぎを合わせた総継続ケース数は，遊戯面接（プレイ・セラピー）16件，心理教育面接24件，臨床心理面接14件である。

(心理教育相談室長 播磨俊子)